

1. 看護職員として必要な基本姿勢と態度についての到達目標

ふくの若葉病院看護・介護部

★ = 1年以内に到達を目指す項目

氏名: \_\_\_\_\_

到達度の目安 II:指導の下でできる I:自立してできる

目 標	項 目	★	到達度評価					到達 の 目安
			1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	12ヶ月	
看護職員としての自覚と責任ある行動	①人間の生命・尊厳を尊重し、患者の人権を擁護する	★						I
	②看護行為によって、患者の生命を脅かす危険性を認識し行動する	★						I
	③職業人としての自覚を持ち、看護倫理に基づいて行動する	★						I
患者の理解と患者・家族との良好な関係確立	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	★						I
	②患者を人として尊重し、受容的・共感的態度で接する	★						I
	③患者・家族に分かり易く説明し、同意を得る	★						I
	④患者・家族の意向を把握し、意思決定を支援する	★						II
	⑤守秘義務を厳守する	★						I
	⑥プライバシーに配慮する	★						I
	⑦患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する	★						I
組織における役割・心構えの理解と適切な行動	①病院および看護部の理念を理解する	★						I
	②病院及び看護部の組織と機能について理解する	★						II
	③チーム医療の構成員としての役割を理解し、協働する	★						II
	④同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる	★						I
	⑤相手の思いや考えを尊重し行動する	★						I
主体的な自己学習の継続	①自己評価及び他者評価を踏まえて自己課題を明確にする	★						I
	②課題の解決に向けて、必要な情報収集や学習に取り組む	★						II
	③学習の成果を看護実践に活用する	★						II

## 2. 看護技術についての到達目標

ふくの若葉病院看護・介護部

★ = 1年以内に到達を目指す項目

到達度の目安 IV:知識としてわかる

II:助言を受けながら主体的にできる

氏名:

III:演習(見学)できる

I:自立してできる

目標	項目	★	到達度評価					到達の目安
			1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	12ヶ月	
安全で快適な環境調整技術の理解と実践	①病室環境の調整ができる(温度・湿度・換気・採光・臭気)	★						I
	②ベッドメイキング(シーツ交換・包布・枕カバー交換)	★						I
	③離床後のベッドの整理・整頓への配慮ができる	★						I
	④ベッド環境図を活用して環境を適切に整えることができる	★						I
	⑤S字フックを活用に電源コードを整えることができる	★						I
	⑥床頭台・タンスの整理整頓	★						I
感染拡大予防の理解と実践	①当院の手洗い手順に基いて実施できる	★						I
	②必要な防護用具の選択と使用(マスク・ガウン・手袋など)	★						I
	③感染症患者の識別方法がわかる	★						I
	④感染扱いの寝具・寝衣の洗濯・取り扱いがわかる	★						I
	⑤針刺し、切創、粘膜暴露等による職業感染防止対策と事故後の対応がわかる	★						I
	⑥鑷子・クーパーなど、物品の洗浄・消毒・滅菌がわかる	★						I
	⑦当院の定められた方法で使用機材の洗浄ができる	★						I
	⑧廃棄物の種類に応じた規定に則った取り扱いができる	★						I
安全確保の理解と技術	①患者誤認防止策の理解・実践	★						I
	②転倒転落防止策の理解・実施	★						I
	③患者離院防止策の理解・実施	★						I
	④放射線暴露防止策の理解・実践	★						I
身体の清潔援助技術の理解と実践	①患者に応じた適切な入浴方法を選択できる	★						I
	②状態把握により「入浴可・不可」の判断や確認ができる	★						II
	③入浴中の患者の状態観察ができる	★						I
	④身体状況に応じた寝衣の選択ができる	★						I
	⑤寝衣交換、整容の援助ができる	★						I
	⑥転倒・転落・溺水・熱傷などの事故を予防した援助	★						II
	⑦全身清拭ができる	★						I
	⑧手浴・足浴ができる	★						I
	⑨歯磨き、うがいの介助ができる	★						I
	⑩義歯の洗浄・保管ができる	★						I
	⑪経口摂取をしない患者の口腔ケアができる	★						I

食事援助技術の理解と実践 (経口摂取) (経管栄養方)	① 食事摂取に適した正しい姿勢を整えることができる	★						I
	② 患者に応じた自助具の選択ができる	★						I
	③ 嚥下障害のある患者の食事介助ができる	★						I
	④ 摂食嚥下訓練記録の方法が解り記録ができる	★						I
	⑤ 経管栄養の準備ができる	★						I
	⑥ 経管栄養注入前に、適切な体位に整えることができる	★						I
	⑦ 経管栄養を適切な速度で注入できる	★						I
	⑧ 経管栄養注入中の患者の観察と注入管理ができる	★						I
	⑨ 胃瘻チューブ挿入部の観察ができる	★						I
	⑩ 胃瘻チューブ交換時の介助ができる							III
	⑪ 胃管カテーテルからの栄養注入時の確認ができる	★						I
	⑫ 胃管カテーテルの挿入と確認ができる	★						II
排泄援助技術の理解と実践	① 排泄援助ができる(ポータブルトイレ・病棟トイレ)	★						I
	② 患者に適したオムツの使用がわかる	★						I
	③ 当院の手順に沿って、オムツ交換ができる(別紙)	★						I
	④ 尿・便の観察ができ、異常発見時の報告ができる	★						I
	⑤ 陰部・殿部の観察をし、異常の判断と報告ができる	★						I
	⑥ 患者の排泄パターンを観察し考察できる	★						II
	⑦ 清潔な技術で導尿が行える	★						I
	⑧ 清潔な技術で膀胱留置カテーテルの留置ができる	★						I
	⑨ 排便促すための坐薬・浣腸を行える	★						I
	⑩ 摘便の注意事項を理解し安全に実施できる	★						I
活動・休息援助技術の理解と実践	① 患者に応じた車椅子の選択ができる	★						I
	② 患者に応じた歩行介助ができる	★						I
	③ ベッド ⇄ ストレッチャーの移乗・移送介助ができる	★						I
	④ 車椅子 ⇄ ベッドの移乗・移送介助ができる	★						I
	⑤ 患者の身体状況を配慮し、安全に体位変換ができる (麻痺・拘縮創傷・浮腫・眩暈 など)	★						I
	⑥ 適切な方法でギャジアップ姿勢を整える	★						I
	⑦ 可動基点を考慮した姿勢保持ができる	★						I
症状・生体機能観察管理技術	① バイタルサインの観察と考察ができる	★						I
	② 身体計測ができる(身長・体重・体圧 など)	★						I
	③ パルスオキシメーターによる測定とデータの判断ができる	★						I
	④ 血糖測定器による測定とデータの判断ができる	★						I
	⑤ 心電図モニター取り扱いができる	★						I
	⑥ 心電図12誘導の取り扱いができる	★						I

### 3. 診療補助技術についての到達目標

ふくの若葉病院看護・介護部

★ = 1年以内に到達を目指す項目

到達度の目安 IV:知識としてわかる

II:助言を受けながら主体的にできる

氏名:

III:演習(見学)できる

I:自立してできる

目標	項目	★	到達度評価					到達の目安
			1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	12ヶ月	
呼吸循環を整える技術の理解と実践	①酸素ボンベの取り扱いができる	★						I
	②酸素濃縮器の取り扱いができる	★						I
	③酸素吸入療法の準備と使用ができる(インスピロン含む)	★						I
	④指示に従い酸素流量の調整ができる(カードの活用)	★						I
	⑤酸素療法中の患者の観察ができる	★						I
	⑥ネブライザーの準備と実施ができる	★						I
	⑦使用機器を、決められた方法で後始末できる	★						I
	⑧補助換気機器の取り扱いができる (トリロジー・NIPネーザル・オートセットCS)	★						III
	⑨補助換気機器 使用患者の観察ができる	★						III
	⑩当院の手順に基づいて喀痰吸引をする(感染チェックリスト併用)	★						I
	⑪気管切開部からの喀痰吸引ができる	★						I
	⑫気管カニューレの構造の理解と喀痰吸引ができる	★						I
	⑬当院の手順に基づいて吸痰瓶の洗浄ができる	★						I
与薬技術の理解と実践	①薬剤の確認事項が分かり、指差呼称で確認できる	★						I
	②経口薬の与薬を個々に応じた方法でできる	★						I
	③経管栄養患者の薬の準備と注入ができる	★						I
	④薬の溶解について注意点がわかる(溶解時間・相互作用)	★						I
	⑤貼付薬の貼付・交換ができる	★						I
	⑥舌下錠の与薬ができる	★						I
	⑦各塗布薬の作用がわかり、使用と観察ができる	★						II
	⑧直腸内与薬が安全にできる	★						I
	⑨注射の種類に応じた注射針の選択ができる	★						I
	⑩注射薬を清潔操作で取り扱うことができる	★						I
	⑪高カロリー輸液の開通・取り扱いを正しくできる	★						I
	⑫筋肉・皮下・皮内注射ができる(部位の選択・刺入角度など)	★						I
	⑬静脈内・点滴注射ができる(固定・血管の選択・注入速度)	★						III
	⑭抗菌薬を安全に注射できる (筋肉注射・静脈注射・点滴注射 副作用の観察・速度)	★						III
	⑮インスリン注射ができる(インスリン用シリンジの理解)	★						I
	⑯ペン型インスリンによる注射ができる	★						I

与薬技術の 理解と実践	⑰中心静脈栄養(CVP)の穿刺準備・介助ができる	★						I
	⑱CVP穿刺針の抜去・入浴前準備ができる	★						II
	⑲CVC対象者の入浴前準備・入浴後処置ができる	★						III
	⑳輸液ポンプの準備と使用・管理ができる	★						I
	㉑病棟常備薬の管理がわかる	★						II
	㉒医療用麻薬の種類がわかる	★						II
	㉓医療用麻薬の使用・管理がわかる	★						II
	㉔医療用麻薬の作用と副作用がわかり、観察できる	★						II
	㉕薬剤管理の理解(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)							IV
	㉖輸血の準備ができる							IV
㉗輸血中と輸血後の観察ができる							IV	
検体検査の 実施と 取り扱い	①静脈採血と検体の取り扱いができる	★						I
	②動脈採血の準備と介助、検体の取り扱いができる	★						II
	③採尿の実施と検体の取り扱いができる	★						I
	④喀痰培養の方法がわかり、採取と取り扱いができる	★						I
	⑤血液培養検査と検体の取り扱いができる	★						II
創傷処置・ 管理自術	①スキンテアの観察と処置ができる	★						II
	②創傷処置ができる	★						II
	③褥瘡発生予防方法を理解し実践できる	★						I
	④褥瘡処置ができる	★						III
	⑤褥瘡DESIGN-Rの評価と経過記録がわかり記載できる	★						III
	⑥包帯法の理解	★						II
救急救命 処置・技術	①意識レベルの観察と判断ができる	★						I
	②気道確保の方法がわかり実施できる	★						II
	③人工呼吸ができる(アンビューバックの使用)	★						III
	④胸骨マッサージができる	★						III
	⑤気管内挿管の準備と介助ができる							IV
	⑥外傷性出血の処置	★						III
	⑦除細動(AED)の設置場所がわかり、準備ができる	★						III
	⑧チームメンバーへの応援要請	★						I
死亡時のケア	①死後処置が行える	★						III
	②退院、お迎えに関連した連絡事がわかる	★						III
	③死亡診断書の確認と取り扱いができる	★						III